



【聖霊がともにおられる教会の姿(1)】

聖書:使徒の働き2章11、36-41節・暗唱聖句:ローマ人への手紙8章26節

説教者: 鄭南哲牧師

<1.教会の性格が変わる>

聖霊が降臨されることにより新約の教会は旧約時代とは違った形になりました。旧約の教会は神様にいけにえをささげる儀式がとっても大切でした。人々は毎回、罪が赦され、きよめられるために羊や、牛などを持って来て唯一の真の神様にいけにえをささげました。ささげた後でも、繰り返される罪のためふたたびいけにえをささげなければなりませんでした。休む間がありませんでした。エルサレムの聖殿の時もいけにえをささげに来た人々でいつもさわがしく、その手順はあまりにも複雑でなかなか覚えるのも難しかったと思います。しかし、五旬節、聖霊の降臨によって新約の教会が誕生した後は旧約のやり方がなくなりました。聖書をどこを探しても旧約の時代のようにいけにえをささげたという箇所はありません。いったいなぜそれがなくなったのでしょうか。

ヘブル人への手紙10:12-14、17-18節を読んでみてください。

“しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、それから、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法を思い出すことはしない」これらのことが赦されるところでは、罪のためのささげ物はもはや無用です。”つまり、イエス・キリストご自分がささげ物になったたった、一つのささげものによって、もはやふたたびいけにえをささげるようなことはいらなくなったということです。旧約時代とはまったく形が変わったものになったのです。

すると、新約の教会は聖霊を中心にどのように具体的に変わったのでしょうか？

<1.口が開かれた教会:伝道する教会>

屋上の間に集まった人たちはみな聖霊に満たされて聖霊の導きによって話し出す教会となりました。

“すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。” (2:4)

人々の口が開かれたのです。全エルサレムがさわがしくなるほど伝道の口が開かれました。イエス様が十字架の上で死なれるとこわくなって、震えていた人々、人々の前では一言もまともにしゃべることのできなかったガリラヤの無学の漁師たち、彼らに奇跡が起こったのです。口が開かれました。話し出しはじめました。ぼそぼそということばではありませんでした。はずかしいことなく大声で叫びました。“あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。” (2:11以下)

弟子たちは神様の大きなみわざを語りました。ほかの話ではなく、神様の大きなみわざを語りました。

神様の大きなみわざとは何でしょうか。14節でペテロがこれに対して説教を始めます。

“神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。” (2:32)

ペテロが話した中心的な内容は ‘イエス様の復活’ でした。2章36節です。

“ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。”

ペテロはイエス・キリストが我々の主であり、我々の救い主となられたと宣布します。

この事実とはとても大切です。神様がなされた一番のみわざは何ですか。

御子イエス・キリストをこの世に遣わし、十字架で死なれ、三日目によみがえられ、その方をおして全人類の罪を赦し、救おうとすることなのです。神様がなされたことの中で、これほど大きな愛、これほど大きな奇跡はあるのでしょうか。そういうわけで、聖霊に満たされた信徒たちはためらわず、口を開けて、心を開いて、イエス・キリストが我々のために死なれ、その方が三日目によみがえられて、全人類の救い主となられたことを大声で叫ぶ教会となったのです。

旧約時代の教会が尊くいけにえをささげる教会だったのであれば、新約時代の教会は口を開けて、大きい声でイエス・キリストを伝える教会となったのです。、つまり、伝道する教会、宣教する教会、弟子を作る教会となったのです。

真理の御霊である聖霊の神様が、集まった使徒たちと信徒たちに臨在され、イエスがメシアであることと復活された事を確信させて下さいました。そして、彼らに力を与え、エルサレムとユダヤ全土、サマリアおよび地の果てまで証人となるようにさせて下さいました。証人とは何ですか。話す人(見た事、聞いた事を証言する人)です。聖霊が臨在されると教会に属する神様の人たちがイエス・キリストを信じると同時に確信をもつようになりました。そして世に出て、神様のみわざとイエス・キリストの愛を人々に証する神様の共同体となったのです。

ですから聖霊が住まわれる主の教会であるならば、教会のすべての目的が神様がイエス・キリストというすばらしい救いの道をあたえてくださったという事実を全世界の前で、人々の前で宣布しなければなりません。何のことばもない静かな教会というのは敬虔な教会ではなく聖霊の生命力のない教会に違いないと信じます。

また今年もクリスマスを迎えながら、我々も伝道の行事としていろいろ準備しています。なぜでしょうか？もちろん、クリスマスはどんな日であるか、イエス・キリストがこの世に來られた真の意味を伝えるためです。

イエス・キリストの福音と愛を証するためです。CPC家族みんなどこに行っても聖霊に満たされ神様の大きなみわざを言える

主の弟子たちとなりますよう主の御名によって祝福します。我々の表情が、行動が、くちびるがいらないうわさ話などなく、イエス・キリストを証し、イエス・キリストの愛を表す主の道具として用いてください。と祈りましょう。我々の生き方で、我々の人格でイエス・キリストを表すことができるように祈りましょう。

<2. 3000人の悔い改めのみわざがある教会>

使徒の働き読んで見ると を読むと、聖霊の力がどのぐらいなのかが分かるいくつかの場面があります。その中で使徒の働き 2章2:37-38節 で記録された箇所ほど聖霊の力を強く表して下さった箇所はありません。前代未聞（ぜんだいみもん）の聖霊の力強いみわざがペテロの短い説教の後、起こったわけです。3000人という人々が一気に悔い改めたのです。それだけではなく洗礼も受けました。4章4節に、“しかし、みことばを聞いた人々がおおぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。”の箇所と比較してみると男を中心に出した統計であることが分かりますが、これは決して女性の価値を無視したからではなく、当時、慣習に従って男の数を数えれば、女性の数は予想することができたからです。

この人々は自分の要求を求めたり、個人的なくやささをもつて神様の御前に集まって来たわけではありません。さらに神秘的な 体験をしたくて集まった群れでもありません。3000人、 彼らは自分たちの胸をたたきながら悔い改める者でした。ところが、聖霊の大きなみわざが起こったところに集まっていた人々はただ3000人だけだったのでしょうか？ おそらく当時、五旬節を守るためにエルサレムに集まってきた相当のユダヤ人（何万人）たちもいたはずですが(2:14)。しかし、聖書にはその場に集まってきた人の数ではなくただ、悔い改めた3000人だけ記録されています。

ここで、注目すべきことは、神様が注目して数えたのはただ悔い改めた3000人だけだったということです。なぜでしょうか？神様は悔い改める人を一番尊く見ておられるからです。心を砕き、悔い改める人を愛しておられるのです。神様の御ことばを聞くとき、涙もつて、砕かれる心で神様を見上げる人、神様はそのような人を愛しておられます。ですから、どんなにたくさん信者が教会に集まっても礼拝をささげるのであっても、神様はみなを数えることはされな ないと思います。ある人は神様があわれんで下さいますが、ある人はその数に入らせてくだらない場合もあるかも知れません。とっても残念ですが、今日の御ことばをとおして見るときこれは事実です。

まことに悔い改める人、さまよいの中であっても、心からの悔い改め、主に赦され、抱かれる人だけが、神様のあわれみの数に入れられます。信仰もなく、適当に教会に通ったのに、ある瞬間、御ことばにふれられ心を砕かれ、主の御前で悔い改める人、神様はその人を3000人の中の一人としてかならず数えてくださるということです。しかし、もし、数多くの罪を犯しながらも、心を砕く悔い改めなしに教会に来て一生懸命に賛美し、それに興奮して涙を流す人があるなら、神様はその人を決して3000人に含ませて下さらないでしょう。なぜなら、心からの悔い改めがないからです。

ですから、礼拝をささげるたびに悔い改める心がかならずあるかないかを確認しなければなりません。神様の御前で罪赦された者であるならばさらにそうすべきです。すでにすべての罪を赦された神様の子供であり、しみもとがなくいづれ、神様の御前で立つ者として保障されているので、一つ、二つだけでも、間違った罪があれば、心が苦しいし、その心をもって主の御前に座ったとき自然に悔い改めらざるを得ません。そういうわけですから、悔い改める人こそ幸いな人である事を覚えましょう。

我々のクリスチャンプレイズチャーチもみな'悔い改める3000人に入れられる教会となりますように慕い求めましょう。教会に漠然と出席する3000人ではなく、神様の御前に出たとき悔い改めることのできる3000人が集まるその教会こそが、聖霊がともにおられるまことの主の教会の本当の姿であると信じます。

ローマ人への手紙8章26節には、“御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどのように祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。”と書かれています。

愛する信仰の家族のみなさん！今日も聖霊様は弱い我々の中で深いうめきをもってとりなしてくださいしています。聖霊が我々の中でわらっていると云われましたか。いや、うめいていると言いました。心配してくださっているということです。聖霊が笑う、喜ぶという御ことばはあまりありません。なぜでしょうか？ 世の終わりはあまりにも差し迫っているのです、いざとなったら、信仰を捨てて、この世に従いやすい、それで、受けた恵みをすべてこぼしやすくなるからです。そういうわけで、いつも聖霊は深いうめきをもってとりなしてくださいしています。そして悔い改めるように促して下さるのです。心を砕くようにしてくださいなのです。

我々とともにおられる聖霊様に敏感にならなければなりません。鈍感なのが問題です。ですから、悔い改めないことが問題です。悔い改めた3000人の中に日々、入らせていただくことこそ、我々に与えられた一番の恵みであり、祝福ではないでしょうか。我々は過去のどんな時よりも悪い罪人です。初代教会の信徒たち、信仰の先輩らは我々のように容易く罪を犯したり、この世と妥協しませんでした。なのにもかかわらず、聖霊においてはいつも悔い改めのみわざがありました。11月最後の主日、今日、我々ももう一度イエス様のすそをつかんで、自分たちの弱さを悔い改め、悔い改めることにより、主のあわれみをいただく祝福された3000人の中の一人一人となりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！